



MESSAGE FROM THE PRINCIPAL'S OFFICE

校長室だより

6月号

河内長野市立高向小学校

令和6年5月31日



先日の大雨の翌日は、初夏らしい風が心地よい、さわやかな晴れの日となりました。校庭にはカエルがあちこちに現れ、一人の子どもがそれを捕まえると他の子どもたちが寄ってきて覗き込み、最後には誰もなく「死んでしまうから逃がしたりやー」などと言いながら教室に戻っていきます。

昔、北海道旭山動物園の小菅正夫さん（現在は名誉園長）の講演を聞いたとき、「世界の裏側の紛争地で、市民が亡くなったというニュースをテレビで目にしても泣くことはない（泣く、嘆き悲しむという感情にまでは至らない）が、手のひらの上で失われていく小鳥の命には涙が流れるものだ」ということをお話されていたのが思い出されます（記憶上の言葉なので意識されています）。命の大切さによく言われますが、見えもしなければ普段感じることもできないものは、大人も子どももなかなか自分事にはなりません。何事も体験から学ぶことが一番だと思いつつ、子どもたちには「目で見て、触れて、人と伝え合って成長する日々」を過ごしてもらおうべく、今月もさまざまな教育活動を進めてまいります。

6月を気持ちよく過ごすために～子どもたちの体と心に疲れが出やすい時期です～

6月は梅雨の季節。教室で過ごすことが多くなり、思う存分に体を動かすことがどうしても少なくなります。運動不足はストレスの要因にもなりますし、そこに睡眠不足などの不調が重なると心もイライラして友だちとのトラブルや思わぬケガにつながることもあります。

学校では、休み時間の遊び方について全校朝会や各学年で取り上げたり、縦割り活動でも室内で楽しく過ごす工夫をしたり、トラブルやケガのない過ごし方ができるように指導を続けていきます。ご家庭でも、ゲームや動画視聴、SNSの利用などに声掛けいただき、寝る前には明日の準備をして「宿題をすませているか」「忘れ物はないか」また高学年であれば、持ち帰っているノートなどから学習の様子を見て「落ち着いてその子らしく過ごせているのか」など様子を気にかけていただければと思います。



5月30日には、縦割り活動「たこわり遊び」がありました。長縄やドッジボール、陣取りやだるまさんがころんだなど、班ごとに楽しんでいました。高学年が低学年の仲間を気遣う声かけや行動は、その日の天気のようにさわやかでした。

◎ 西中学校区としても、子どもたちを見守り育みます。

家庭におけるSNS利用の低年齢化に伴うトラブルが年々増えています。西中学校区では、月に一度高向・天野小学校と西中学校の担当者が集まって、児童生徒の生活や取組みについての情報交換会を行っており、5月会議の事案の一つが子どもたちの放課後の様子と家庭におけるSNS利用についてでした。

便利な機能ですが、子どもたちには使いこなせない面も多く、些細なことからもトラブルにつながります。以下にありがちなトラブルの例を挙げますので、ご家庭での指導やルールづくりの参考にしてください。

- つたない言葉でやり取りしたり、不適切な絵文字を利用したりして誤解を生んだ。
- いつもの仲間同士の「ゆるいルール」を知らない新しい仲間とのやりとりで「約束を反故にした・された」とトラブル。
- その仲間に入っていない個人の写真を勝手にグループに投稿、紹介。
- 保護者の携帯で子ども同士がSNSのやり取りをしており、保護者がやり取りを確認したが返信等はしなかったので相手の友だちが「既読スルーされた」と誤解してトラブルに。
- 連日深夜2時頃までメッセージのやりとり。保護者も気づけず、遅刻や宿題忘れなど生活や学習に影響が出て発覚。
- 動画の投稿者にあこがれて、名前など自ら個人情報を教えて個人的にやり取りをしてしまった。

SNSも適切に使えば便利なものですし、我々親世代の子どものころには無かったことですので、何が問題なのかピンとこなかったり、思春期の難しさと重なって扱いが難しい面があったりして、実際には話し合いにくいということも聞かれます。しかし、SNSでは他人とつながることが基本です。自分や自分の家庭ではそこまでのことにはならないと思っていても、いざ利用するとなれば、トラブルに巻き込まれたり犯罪被害に遭ったりすることへの危険性をふまえ、防止策はやはり必要です。「フィルタリング」や「ペアレンタルコントロール」を活用することをはじめ、実際の使用においては保護者のみなさまの日頃からの見守りとご指導が何より重要です。

当然学校でも、いじめなどの人権問題や、犯罪に巻き込まれる危険性のあるケースを含め、不適切な使用について指導しています。また、未然防止のために各学年に応じて専門家による出前授業も毎年実施しています。家庭と学校で連絡を取り合い、同じ気持ち、同じ内容でお子さまに指導していくことが一番効果的であると考えておりますので、お子さまに何か気がかりな様子があれば、早めに学校へもご相談ください。